

平成 27 年 2 月期 第 1 四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成 26 年 7 月 10 日

上場会社名 株式会社柿安本店 上場取引所 東
 コード番号 2294 URL <http://www.kakiyasuhonten.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 赤塚 保正
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 管理本部長 (氏名) 赤塚 義弘 (TEL) 0594 (23) 5500
 四半期報告書提出予定日 平成 26 年 7 月 10 日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有・無
 四半期決算説明会開催の有無 : 有・無

(百万円未満切捨て)

1. 平成 27 年 2 月期第 1 四半期の連結業績 (平成 26 年 3 月 1 日～平成 26 年 5 月 31 日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27 年 2 月期第 1 四半期	10,419	5.8	544	9.9	547	10.0	285	9.8
26 年 2 月期第 1 四半期	9,850	△1.3	495	△11.3	497	△11.1	259	△10.6

(注) 包括利益 27 年 2 月期第 1 四半期 291 百万円 (7.1%) 26 年 2 月期第 1 四半期 272 百万円 (△0.5%)

	1 株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益
27 年 2 月期第 1 四半期	円 銭 24.06	円 銭 —
26 年 2 月期第 1 四半期	20.86	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
27 年 2 月期第 1 四半期	百万円 18,477	百万円 12,843	% 69.5
26 年 2 月期	18,170	13,026	71.7

(参考) 自己資本 27 年 2 月期第 1 四半期 12,843 百万円 26 年 2 月期 13,026 百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第 1 四半期末	第 2 四半期末	第 3 四半期末	期末	合計
26 年 2 月期	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 40.00	円 銭 40.00
27 年 2 月期	—	—	—	—	—
27 年 2 月期(予想)	—	0.00	—	40.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有・無

3. 平成 27 年 2 月期の連結業績予想 (平成 26 年 3 月 1 日～平成 27 年 2 月 28 日)

(%表示は、通期は対前期、第 2 四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1 株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第 2 四半期(累計)	21,270	4.8	1,042	△2.6	1,045	△3.4	572	1.5	48.29
通期	44,727	5.1	2,671	23.5	2,686	22.0	1,472	29.0	124.27

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有・無

※. 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有・無
新規 一社 (社名) , 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有・無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有・無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 有・無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有・無
- ④ 修正再表示 : 有・無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年2月期1Q	12,446,700株	26年2月期	12,446,700株
② 期末自己株式数	27年2月期1Q	600,509株	26年2月期	600,470株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年2月期1Q	11,846,221株	26年2月期1Q	12,446,339株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明, その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(金額の表示単位の変更について)

当社の四半期連結財務諸表に表示される科目その他の事項の金額は、従来、千円単位で記載しておりましたが、当第1四半期連結会計期間及び当第1四半期連結累計期間より百万円単位で記載することに変更いたしました。

なお、比較を容易にするため、前連結会計年度及び前第1四半期連結累計期間についても百万円単位に組替え表示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
4. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、消費税増税に伴う駆け込み需要とその反動がみられたものの、政府の経済政策、金融政策を背景に緩やかながらも回復基調で推移いたしました。

食関連業界におきましては、消費マインドの改善の一方で、消費税増税に伴う可処分所得の実質目減りや各種コストの上昇等厳しい経営環境が続いております。

このような環境の中、当社グループは、食材の市場からの直接買付けによる調達強化・安定、鮮度の向上を図るとともに、生産者の顔の見える食材の拡大を進めました。またこれら食材の強化と並行して加工、料理技術研修を充実させるなど、企業メッセージ「おいしさ、育む。」の具現化を推進してまいりました。

出退店、改装につきましては、「口福堂」12店を含め計14店の出店、2店舗の閉鎖とともに、前期中より改装に着手したものを含め6店の改装オープンにより既存店の活性化を図りました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は10,419百万円(前年同期比5.8%増)、営業利益は544百万円(同9.9%増)、経常利益は547百万円(同10.0%増)、四半期純利益は285百万円(同9.8%増)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(a) 精肉事業

これまで家庭の日常使い商品の刷新によるおいしさの向上を継続してまいりましたが、新たに「おかずハンバーグ」を新商品として加え、品揃えを強化するとともに、日常使い商品による均一価格パック、増量パック販促などにより消費税増税後の需要喚起を行いました。

また、「柿安の日」企画を柿安牛やプリンシヤスポークなどオリジナルブランド中心に切り替え、拡販、浸透を進めました。

この結果、当事業の売上高は3,557百万円(前年同期比3.1%増)、セグメント利益は285百万円(同11.2%増)となりました。

(b) 惣菜事業

生産者の顔の見える本物の食材を使用した商品の拡充とともに料理技術向上への集合研修の強化を行いました。

また、『料理人が毎日つくるおいしさ。』をキャッチフレーズに主力業態「柿安ダイニング」の15周年企画の投入やお花見企画などの季節ごとの集客を強化しました。

この結果、当事業の売上高は3,110百万円(前年同期比2.8%増)、セグメント利益は250百万円(同4.2%減)となりました。

(c) 和菓子事業

長野県、和歌山県、山形県への初出店を含め口福堂を12店、併せて常磐自動車道(上り線)守谷サービスエリアに「バサール守谷上り柿次郎」を出店するとともに、「口福堂アルカード亀有店」を団子専門店『口福堂だんご』との併設型店舗に改装し新たな店づくりにも着手しました。

また、新商品開発の強化、東京大田市場からの直接買付けルートの整備により主力商品いちご大福の販売期間延長を行いました。

この結果、当事業の売上高は1,799百万円(前年同期比36.2%増)、セグメント利益は223百万円(同57.3%増)となりました。

(d) レストラン事業

“より贅沢な時間の提供”に向け、ビュッフェレストラン「三尺三寸箸」3店(イオンモール各務原店、イオンモール大高店、ラゾーナ川崎プラザ店)の客席を改装によりゆとりを持たせ、併せてスペシャルメニューによる料理のグレードアップを図りました。

また、ビュッフェレストランにおける春の歓送迎会企画やグリルレストランの肉の日企画などにより集客を強化しました。

この結果、当事業の売上高は1,531百万円(前年同期比6.6%減)、セグメント利益は113百万円(同24.6%減)となりました。

(e) 食品事業

中元ギフト商戦向けギフトセンターの好位置の確保や各百貨店カタログへの掲載効果向上への準備を行うとともに内祝いや手土産、母の日などのパーソナルギフトの強化を図りました。

この結果、当事業の売上高は420百万円(前年同期比3.7%増)、セグメント損失は12百万円(前年同期は23百万円のセグメント損失)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ306百万円増加し、18,477百万円となりました。

流動資産は72百万円増加し、10,417百万円となりました。その主な要因は、現金及び預金が908百万円減少したものの、売掛金が714百万円、仕掛品が220百万円それぞれ増加したことによるものであります。固定資産は234百万円増加し、8,059百万円となりました。その主な要因は、建物及び構築物が147百万円、差入保証金が27百万円それぞれ増加したことによるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ489百万円増加し、5,633百万円となりました。

流動負債は536百万円増加し、4,569百万円となりました。その主な要因は、買掛金が278百万円、未払費用が204百万円それぞれ増加したことによるものであります。固定負債は47百万円減少し、1,064百万円となりました。その主な要因は、長期借入金が42百万円減少したことによるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ182百万円減少し、12,843百万円となりました。その主な要因は、利益剰余金が188百万円減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、平成26年4月9日に発表いたしました「平成26年2月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」に記載しております予想から変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,021	6,113
受取手形及び売掛金	2,441	3,155
商品及び製品	247	316
仕掛品	124	345
原材料及び貯蔵品	167	180
繰延税金資産	221	264
その他	121	41
貸倒引当金	△0	—
流動資産合計	10,345	10,417
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,345	3,492
土地	2,282	2,282
その他(純額)	694	730
有形固定資産合計	6,321	6,505
無形固定資産		
その他	119	131
無形固定資産合計	119	131
投資その他の資産		
投資有価証券	196	206
繰延税金資産	246	244
差入保証金	732	759
その他	207	211
投資その他の資産合計	1,383	1,422
固定資産合計	7,824	8,059
資産合計	18,170	18,477
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,222	1,501
未払金	575	461
未払法人税等	528	293
未払費用	926	1,130
賞与引当金	363	543
役員賞与引当金	31	9
その他	384	628
流動負債合計	4,032	4,569
固定負債		
長期借入金	532	490

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年5月31日)
退職給付引当金	16	12
資産除去債務	464	476
その他	98	85
固定負債合計	1,112	1,064
負債合計	5,144	5,633
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,269	1,269
資本剰余金	1,074	1,074
利益剰余金	11,498	11,309
自己株式	△817	△817
株主資本合計	13,025	12,836
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	0	6
その他の包括利益累計額合計	0	6
純資産合計	13,026	12,843
負債純資産合計	18,170	18,477

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年5月31日)
売上高	9,850	10,419
売上原価	5,207	5,383
売上総利益	4,642	5,035
販売費及び一般管理費	4,147	4,491
営業利益	495	544
営業外収益		
受取利息	0	0
その他	6	7
営業外収益合計	7	8
営業外費用		
支払利息	3	2
その他	1	2
営業外費用合計	5	5
経常利益	497	547
特別利益		
固定資産売却益	—	0
特別利益合計	—	0
特別損失		
固定資産除売却損	1	1
減損損失	—	26
特別損失合計	1	27
税金等調整前四半期純利益	496	519
法人税、住民税及び事業税	316	280
法人税等調整額	△79	△45
法人税等合計	237	234
少数株主損益調整前四半期純利益	259	285
四半期純利益	259	285

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年5月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	259	285
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	12	6
その他の包括利益合計	12	6
四半期包括利益	272	291
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	272	291
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日至平成25年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	精肉事業	惣菜事業	和菓子 事業	レストラン 事業	食品事業	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	3,450	3,025	1,320	1,639	405	9,842	8	9,850	—	9,850
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	344	2	25	4	79	455	—	455	△455	—
計	3,795	3,027	1,346	1,644	484	10,297	8	10,306	△455	9,850
セグメント利益 又は損失(△)	256	261	142	150	△23	786	△1	785	△290	495

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、全社催事等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△290百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△302百万円及びその他調整額11百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間（自平成26年3月1日至平成26年5月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	精肉事業	惣菜事業	和菓子 事業	レストラン 事業	食品事業	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	3,557	3,110	1,799	1,531	420	10,419	—	10,419	—	10,419
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	346	2	29	20	80	479	—	479	△479	—
計	3,903	3,112	1,828	1,552	500	10,898	—	10,898	△479	10,419
セグメント利益 又は損失(△)	285	250	223	113	△12	860	—	860	△315	544

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、全社催事等であります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△315百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△327百万円及びその他調整額11百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「精肉事業」及び「惣菜事業」において、店舗設備の減損損失をそれぞれ5百万円、20百万円計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間において、26百万円であります。